令和6年度第3回寝屋川市地域福祉計画
推進委員会 会議要旨

会議の名称	令和6年度第3回寝屋川市地域福祉計画推進委員会
開催日時	令和7年1月30日（木） 午後2時から午後3時30分まで
開催場所	議会棟4階 第Ⅰ・Ⅱ会議室
出席委員	岡田委員長、伊与田副委員長、明石委員、中島委員、林堂委員、宮本委員、近藤委員、朽見委員、森田委員、松下委員、乾委員
欠席委員	田中委員
案件	1 第5次寝屋川市地域福祉計画の策定に係るニーズ調査の結果について 2 その他
会議の公開、非公開の別及び非公開の理由	公開
傍聴者の数	1名
所管部署 (事務局)	福祉部 福祉総務課

事務局	<p>次第1 第5次寝屋川市地域福祉計画の策定に係るニーズ調査の結果について (次第1について説明(参照資料2、3))</p>
委員	<p>6ページの「問23 地域福祉に関する次のような活動に参加していますか」について、男女別の比率は分かるだろうか。自治会の集まりでは、ほとんど女性で男性は集まらない現状である。</p>
事務局	<p>「運営スタッフとして参加している」、「参加者として参加している」と回答した人の男女比については、実数で確認したところ、ご指摘のとおりで概ね女性の方が男性よりも多い。</p>
委員	<p>5ページに「地域に居場所がない」と答える人が多いとあるが、これはやはりボランティアの活動が鍵だろう。</p> <p>以前、大阪府下のボランティアの会合に参加したが、ある市では有償ボランティアとしていろんな人材が登録しており、学生から高齢者までゴミ出しや買い物の手伝いなど、何でも屋のように活動しているとのこと。また、ある市では団体ではどうしても制約が出て来るので、個人の自由な時間で活動できる個人ボランティアを進めているところもある。</p> <p>ボランティアはやってみなければ魅力はわからない。</p> <p>時代にあわせてボランティアの形態も変えていかなければならないのではないか。</p>
委員長	<p>有償ボランティアや個人ボランティアといったこれまでの形態にこだわらない活動や、様々な立場の人でも参加できるような活動があると思う。そのような人たちにどのようにして情報を届けて行くのかも課題になると思うので今後も検討いただきたい。</p>

委員	<p>福祉活動をする中で、自治会の存在が弱体化しているように感じる。未加入者の増加や、自治会費を払う必要がないのではないかとこの人もいる。行政としても頑張っているとは思いますが、地域住民側が自治会に対してどのように考えているのか疑問だ。</p> <p>コミュニティをつくっていく上で、中心は自治会だと思うので、このあたりについて行政としてはどう考えているのか。</p>
委員長	<p>寝屋川市に限らず自治会の組織化率は低下しており、特効薬も無い状況だ。</p> <p>何か市として自治会について考えはあるのか。</p>
事務局	<p>市でも地域の活動を活発にするために条例の制定を進めているところだ。従来どおりの援助や支援のために民生委員や地域の団体などに負担をかけているところもあるので、行政と寄り添いながら進めていく部分も必要だと考えており、行政も協力して考えていきたい。</p>
委員	<p>補足すると、現在、自治体の加入については、転入者には自治会に入っただけのように声掛けをしており、パンフレットを作成するなどの取り組みをしているので、徐々に良くなっていくとは思う。</p> <p>ただし、大きなマンションに住んでいる人や、賃貸で転入してきた人、若い人で共働きの家庭などは、なかなか加入してもらえないという現状である。未加入だからといって、地域で何かが起こった際にやはり放っておけないので、この課題を解決していかなければならない。</p> <p>最近では未加入者が自治会で管理しているゴミ捨て場を使用することで、当番をしている人からの不満がでるなどのケースがあったりする。</p>

<p>委員長</p>	<p>従来のつながりの良いところである自治会が、現代的な住民の意識などの変化において、土地のつながりだけでは結びつきが強化できない社会になってしまっていると思う。一方で、防災、子育て、介護などの機能別や役割別、困りごと別のつながりはどこかで欲しているところがある。そうした部分を上手く活用しながら自治会の機能と連動させていくのも一つである。</p> <p>もちろんそれぞれの人が自分の困っているところだけを助けてもらおうというのは身勝手なのかもしれないが、それでもうまく活用しながら取り組んでいく必要があると思う。</p>
<p>委員</p>	<p>2ページに「経済的に困っている人」とあるが、何か定義はあるのか。物価高騰や賃金の問題など経済格差が広がっている。一般的な世論調査でも経済的に困っているという人は数割はいると思うが、今回の結果を見ると経済的に困っている人は非常に少ない印象だ。</p>
<p>事務局</p>	<p>市民アンケートの属性において、同居家族の中におられる方として、自己申告で経済的に困っている人という選択肢を設けているが、具体的に基準は明記していない。回答者の心情の上で困っている人ということでご理解いただければと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>孤立、孤独といった問題が近所付き合いでも人間同士の関係でも増えている。やはり社会において悪いことが次から次へとありすぎると私は思う。以前から振り込め詐欺などが問題となっているが、高齢者は狙われやすいので、電話がかかっても出るなど警察官は指導するが、昔はドアでも開けばなしにしていたほどだ。今は強盗などにあうかもしれないので、ドアを雁字搦めに閉めて入れないようにし、家の中に居ても外から入れ</p>

<p>委員長</p>	<p>ないようにしているくらいである。昔のようにドアを開けばなしにするような大らかさがなくなったと感じる。</p> <p>他にもいろいろな理由があると思うが、孤独、孤立が自殺につながっている。小学校や中学校の生徒の自殺指示が去年は一番多かったというニュースを聞いたことがある。学校の生徒も孤独、孤立し、自殺までしているような時代だ。社会的な問題として何とかならないものかと思う。</p> <p>昔のようなあり方はなかなか取り戻すことはできないが、新たな社会、新たな時代、新たな課題に対してどのようなつながりを作っていけばいいのかというのをこの地域福祉計画の中で検討していきたいと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>孤独になる前に対策するのは当然だが、人は孤独になったらよく喋るらしい。それを聞いてあげる、分かってあげるということが大事だ。ボランティアの中に、傾聴ボランティアがあるが、このネットワークを広げるのも一つの手だと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>5 ページで障害のある人（子ども）やその家族は、公的な機関や団体・事業者とはつながっているが地域とのつながりが少し薄いのではないかというアンケート結果がある。また、8 ページで地域福祉の課題として障害者（児）に対する地域の理解、交流の促進を図ってほしいということが福祉団体から出ている。</p> <p>障害者（児）が地域で自立して生活するための支援も必要だということで、障害福祉計画の中でも親亡き後問題なども出ている。やはり情報がなかなか手元に届かない課題があり、例えば、親が亡くなり本人だけが残されたときにどういう情報を得る手段としてホームページを見たときに、寝屋川市のホームページは非常に見難く、障害者が知りたい情報までなかなかたどり着</p>

<p>委員長</p>	<p>かない。例えば、困ったときにここに相談してくださいという電話番号をしっかりと書いているような、目で見えるような紙ベースのものが必要ではないか。今は、デジタル化ということでいろいろなデータが公開されているが、障害のある方にとってはより丁寧な説明が必要だと感じる。</p> <p>地域でつながるといふところであれば、一番関心が高いのは災害に関することだと思う。寝屋川市でも災害に関する地域の助け合いなどいろんな取り組みが進んでいるが、実際、能登の地震から1年経過しても障害者の施設の復興は程遠いのが現状だ。能登の場合は、地理的な問題もあるが、実際に災害が起こったときに障害のある方が家の中から出れるかという点と厳しいだろう。情報を得るといふところでは、耳の聞こえない人は特に情報がたどり着かないことが多いので、インフォメーションするときの方法などは工夫していると感じる。アンケートでもどこに相談していいかわからないといふのは、そういう情報がしっかり届いていない結果だろう。市の方法としては広く皆さんにお知らせするといふやり方しかできないと思う。ただ、この人には情報を届けなくてはいけないといふことであれば、もう工夫しているのではないかと。ぜひ、障害者の相談窓口などに関しては、わからなかったのではなく、こういうものがありますよと提示できるようなものを工夫することが必要だと思うので考えていただきたい。</p> <p>世の中、DXやICT化といふことで、煩雑な手続きや時間の節約などが推進されていると思うが、指摘のような情報提供や共有といった点では、受け手側は、抵抗感であったり、届かないといふケースもある。</p> <p>行政としても全面ICT化といふのではなく、アナログとICT化を上手く組み合わせることで情報を届けるといふベストミックス</p>
------------	---

事務局	<p>クスを念頭に進めていただきたい。より個別の事例で見えていくと、紙でなければという人もいると思うので、きめ細やかな情報の提供のあり方を今後考えていただきたい。</p> <p>特に障害の方については、障害の状況などにも応じていろいろな情報提供の方法が必要だと思っている。寝屋川市でもDX化を進めているが、今回のアンケートでも情報入手先として圧倒的に多かったのが市の広報紙と地域の回覧板だ。やはり紙から目で見えて入ってくる情報というのは非常に大きいと痛感している。おそらく今後も一定数、紙は残しつつDX化が進んでいくと思っている。</p>
委員	<p>担い手不足で会を解散するケースが増えている。これを防ぐような何か案があればと思うのだが。</p>
事務局	<p>アンケートでもどこの自治会やボランティア団体でも新しいスタッフが入らないという苦勞がうかがえる。これは本市だけでなく全国的な課題だとも思うので、他市での良い事例などがあれば共有していきたい。</p>
委員	<p>現在自分自身もボランティア活動をしており、社会福祉協議会の元気アップサポーターに所属している。社会福祉協議会というバックボーンがあるためか、あまりアンケート結果にあるような担い手不足や活動資金問題、活動場所などの課題はほとんど聞いたことがないように感じる。</p>
委員	<p>13 ページ、「あなたご自身が認知症などで判断が十分にできなくなったとき、「成年後見制度」を利用したいと思いますか。」について、成年後見制度を利用しないという人が増えている結果だが、前回会議で配布していただいた個別の理由を見ると、費</p>

委員長	<p>用が心配、後見人が見当たらないなどが特に増えているのかと思うが、判断能力が不十分になったからといって必ずしも成年後見を利用しなければならない訳ではない。本当に利用せざるを得ないような人を行政などが中心となってバックアップする、どうすくい上げていくのかということが重要だと思うので、そのあたりを掘り下げてフォローしていくかどうかを検討する必要があると思う。</p> <p>本日が任期では最後の会となるが、これまで皆様には貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。</p> <p>本日は以上とする。</p> <p style="text-align: center;">閉会</p>
-----	---